

研 究 結 果 報 告 書

韓国東亜大学校

崔 殷景

【研究のテーマ】

日本文学における「働く女性」という近代表象

【研究結果】

本研究は「働く女性」とは、女性も職業を持ち始めた近代にできた概念であり、近代の産物であることを前提にしている。要するに、日本近代において女性の社会進出、公的な領域での「働く女性」はどのように変化し、（ジェンダー）表象されてきたのかを女性文学を中心に考察した。

本研究では近代の代表的な女性作家であり、日本初の専業作家である田村俊子に注目し、彼女の代表作でもある『あきらめ』と『女作者』について分析した。二作品には当時いわば「新しい女」といわれる「職業」をもった女性たちが登場してくる。1910年代という新しい時代において女性の代表的職業でもある「女流作家」と「女優」がそれである。近代女性職業の多数には「女」がついて、性が前提になることが多かった。それで『あきらめ』の富枝と三輪、『女作者』の主人公には、男性とは違う性差別的ジェンダー規範がうかがえる。また、俊子は『あきらめ』を通して当時行為と欲望の主体になれない女の、現実で限られた欲望の範囲の拡張を試みたのである。男性文学者に光が当てられていた時代において女性作家による明確な「自己表現」であったといえる。一方、『女作者』では作者になれない、またはなりたくない「女作者」には「女」というジェンダーアイデンティティが先行されることが確認された。ここで注目したいのは彼女たちは（男性）作家とは違い、優先的に性が記され、「女性」の作品として商品化され、ある意味偏見を持ちながら評価されるきらいがある。

本研究では近代教育を受けた女性たちは自ら職業を探し、開拓していくのが隠れ見えた。しかし、当時特定の職業を持った女性は一般的ではなかったからか、同性からは羨望と嫉妬の視線を、異性からは差別的待遇を甘んじて受けてきた。とはいえ、職業を持って「自活」を夢見て、「自分に生き」たいという欲望は女性である自分自身で生きていきたいという意思表示であり、職業女性が活躍する新たな時代を予告する一つの言説として働いているといえよう。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

題名: 「日本文学における「働く女性」という近代表象」

発表者名: 崔殷景

会議名: 韓日文学研究会

日時: 2024年5月10日(金) 午後 5時

場所: 東亜大学校 国際館 359号

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

題名: 「日本文学における「働く女性」という近代表象」

発表者名: 崔殷景

論文掲載誌: 『韓国日本近代文学』

掲載時期等: 2025年5月号

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

Completion Report

Donga University

Choi Eun Kyung

This paper examines the origins and aspects of women's representative occupations in the 1910s, "Actress" and "Female Writer," through two works by Toshiko of the same era. The occupation belong to a particular class among the "career woman" at the time of minorities. Unlike men, gender-discriminatory gender norms are seen in the job name of 'woman'. Until now, theater companies and paragraphs have been the stage of men. Being active as a woman in theater and literary groups can be said to reflect some of the changed aspects of modern Japan and new women.

In 『Akirame』 women who gave up women's college halfway and tried to make 'female writers' and 'actresses' as jobs appeared. In 『OnnaSakusha』, a married woman who has a job as a writer appears. These women received modern education. And, unlike the obedient and weak woman image, she looks for and pioneers a job. Writer Toshiko and women say that they want to "live me" while dreaming of "self-reliance" as a job. It is an expression of the will want to live as women. And it is a sentence that heralds a new era in which professional women will be active.